

川柳

(二十二句)

二十七回生 萩原 直大

笑うのは本人ばかり我が川柳

駄川柳読まされる身になってみよ

よく言うよ見ずにゴミ箱直行便

毎年、暮れになるとサラリーマン川柳の優秀作が紙面に載り、笑いを誘っています。「イヤー うまいもんだな〜」といつも感心して読んでいました。ところが、昨年暮れより、「よしし 俺もいつちよ」といつものオツチヨコチヨイ精神が沸き起こり・・・

川柳に説明文付きは無粋でしょう。でもこれは、句の説明文ではありません。

「会誌の頁数稼ぎ？」 「そうかも」

『川柳に挑戦』

次々と湧いてくるのは駄作のみ

駄作でも教こなしたらそのうちに

こんなのが川柳なのかと友が言い

『夫婦』

仲介の労取る犬も今はこく

喧嘩する ほど仲がいい わけじゃなし

愛なんて米粒よりも軽いもの

今のせは女房元気で留守がいい

忍耐力妻のお陰と感謝する

僕は右妻は左と散歩道

ミーダリエーは外れとワイフいい

老々と認々介護に杖々も

川柳に説明は無粋と言つても年齢、立場、男女の違い等で、なかなか理解してもらえなかつたり、全く別の解釈になつたり。

最近お仲間に入れて頂いた川柳の会、そこはいつも『題詠』、つまりあらかじめ題が決められていて、作つていくものでした。その時の題は『あたり・当』で、「ミーダリ・」の句はその時のもの。私は、「我々

の結婚は「貴方にとって私（妻のこと）は当たり前だつたわね、でも貴方は私にとって、外れダンナだつたわ」と妻が詠んだもの」というのが私の意図。ところが会のメンバーから、「奥さんの宝くじが当たり、貴方のは外れた」と言うことですか？」との質問に啞然としました。

説明せずとも皆さんにこちらの意図するところを組んで頂くのが、川柳の神髄？ 未熟でした。ただ、『チョンガー（独身者）』なんて、50歳以下の方には通じません。死語です。

「老々介護・」の最後の句も、老々介護、認々介護と、歩行に杖が必要な連れ合いを補佐するもう一方も杖をついての歩行、という意味です。

昔、ギリシャ神話のオイデプス物語に、「朝に4本（ハイハイをしているから）、昼に2本、夜は3本足となる動物は？」とありましたが、今ならさしずめ、6本足になる動物ですね。

『介護』

痛み止めその注射がメチャ痛い

ジムへ行き体力付けて医者通い

敬老会どららが主催か分からない

車椅子押す当方も腰痛者

今の私は介護のベテラン？ なんとつて旧名『ホームヘルパー2級』の有資格者です。以前にも書きました。

『ダッケン・チャッカン』：脱健着患』

障害者や脳梗塞等で体の片方が麻痺した人の、着替えをする時の基本です。

脱がせる時は、健全な方から始める。着せる時は、麻痺した方から始める、というものです。

『初恋』

初恋はその言の葉に恋とする

初恋は惚ぶ恋だとみつけたり

我が場合何番目のが初恋か

『望郷（ノスタルジア）』、『旅愁』：『慕情』なんて言葉は、その言の葉に酔ってしまいます。

初恋を和英辞典でひいてみると、ファーストラブ何か違うな。やはりアングロサクソンには、日本人のデリカシーが理解できないのでしょう。

初恋は甘くせつなくほろ苦い

「嘘つけ、そんな経験もない癖に」。

「うるさい、だから『惚ぶ恋』って言ったじゃん」。